

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791300025		
法人名	社会福祉法人一心福祉会		
事業所名	グループホームつつじ苑		
所在地	沖縄県国頭郡東村字平良831番地2		
自己評価作成日	令和3年1月26日	評価結果市町村受理日	令和3年 5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kagokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4791300025-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和3年 2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に地域の方々が事業所を訪ね談笑したり、または地域へ出向き住み慣れた地域との関りが途切れることなく生活が送れるよう支援しています。 ・入居者が安心して生活が送れ、ご家族も相談し易い事業所作りに努めています。 ・家庭的な雰囲気です日常生活(家事や排泄、入浴等)を支え、その人が有する能力に応じて運動や手工芸等を行い可能な限り自立して生活が送れることができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>本事業所は、約3年前に村内で唯一の認知症対応型共同生活介護事業所として開設され、村役場や村立診療所、村立保育園等が近隣に建ち並び、ツツジ園や畑の収穫物も眺められるという恵まれた立地を有している。最期まで慣れ親しんだ地域で暮らしたいという利用者や頻りに面会に行ける近い事業所に入居させたいという家族等の要望に応え、利用者に寄り添う支援の実践に努めている。地元出身の職員が多く、利用者も職員も家族の一員であるという認識のもと家庭的な雰囲気づくりを第一として、家族や地域との日常的な交流を図り、地域に開かれたグループホームを目指して運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。利用者は、馴染みのかかりつけ医を継続受診し、職員と看護師が情報を共有しながら医療との連携を図り、利用者の日常的な健康管理に努めている。今年からリモート診療も可能となっている。コロナ禍でも外出支援を工夫し、玄関先での夕涼み・花火大会や凧揚げ、島巡りのミニドライブ、野菜畑の見物、ペランダでの外気浴等を実施し、利用者の気分転換を図っている。職員の就業環境も整備され、福利厚生面も充実している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者一人ひとりに寄り添い利用者・職員が家族となり家庭的雰囲気でも過ごされる様支援しています。 ・地域の方との関りや世代間交流を大事にし住み慣れた地域でその人らしい暮らしが送れる様努めています。	開設時に作成された理念を掲げ、職員は”寄り添い”を重視し、利用者の話を聴き、利用者本位の過ごし方やペースを尊重して、利用者が日々笑顔で過ごせるよう支援している。面会ができず、「家族に会いたい」という利用者には電話で家族と話をして安心してもらう支援をしている。職員はミーティング等で理念についての振り返りを行い、家族や友人・知人、地域の人が訪問しやすい雰囲気づくりにも努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・これまで、村行事や各区の行事へは積極的に参加し地域の一員としてつながりを切らないよう関わりを持ってきましたが今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域への積極的な交流や参加は自粛した。	開設以来、複数の区や村との関わりを継続して地域の豊年祭やウンジャミ、ハーリー等の行事、各区の敬老会等に参加している。村の「健康と福祉祭り」にも利用者の作品展示や見学で参加し、保育園の園児との交流も続けてきたが、今年度は、コロナ禍で諸行事が中止になり、地域との交流を自粛している。近隣住人や家族から、カボチャやパパイヤ、パイン等、隣接する畑の持ち主からもスイカや野菜の差し入れがある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・積極的に出向くことは自粛しましたが、電話や相談で介護保険に関することやサービスに関する事への助言や関係機関紹介などは実施した。	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・委員のみなさんからの意見や気づきによりサービス見直し更なるサービス向上に努めていたが、運営委員会が施設開催出来なかったため利用者さんの活動報告や健康状況、身体拘束検討委員会内容、事故報告等を2か月に1回資料にて報告した。 ※委員から質問や意見等はこれまでありませんでした。	運営推進会議は定期的開催し、利用者や家族代表、行政職員、地域代表、知見者が参加している。案内状は各委員に毎回手渡しをしている。会議では、利用者の状況や活動状況、健康管理面、ヒヤリ・事故等を報告し、身体拘束検討委員会や外部評価等についても報告し、意見交換を行っている。新型コロナウイルス感染対策のため、5月以降は書面開催に変更し、各委員に活動状況等の資料を送っている。議事録は整備し、閲覧に供している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・役場担当・包括支援センター担当へ施設状況を報告し利用者に関する相談や助言を頂いている。	村役場がすぐ近くにあり、担当課とは普段から利用者の認定調査や入居希望に関する情報交換等を行い、協力関係を築いている。地域からの問い合わせや相談等については、包括支援センターと連携して対応し、関係機関の紹介を行うこともある。認知症に関する講座や講話等地域に出向く取り組みも考えている。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束適正化委員会を開催し1回/2か月実施し実態報告を運営推進委員へ報告している。 ・職員においても「身体拘束における勉強会」を年3回開催して身体拘束なしのケアを実践している。 	<p>身体的拘束等の適正化については、2か月に1回、身体拘束検討委員会で話し合ったことを、運営推進会議を活用した身体拘束適正化会議で報告している。指針やマニュアル等を整備し、研修も定期的実施している。勉強会では「危ないから動かないで。」等の言葉遣いについても話し合い、拘束をしないケアについて共有している。身体拘束適正化会議の開催方法や議事内容について見直し、意見交換等も議事録に追記することを期待したい。</p>	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束の勉強会と合わせ虐待防止についても勉強し日々のケアの中で虐待になってないか直ぐに職員同士で話し合い適切なケアに努めている。 	<p>高齢者虐待防止については、高齢者虐待防止マニュアルを整備し、「認知症の理解」等の勉強会で、スピーチロック等について具体的な事例をあげて話し合っている。利用者から同じことを聞かれた際に語気が荒くなったりしていないか振り返り、声かけの仕方や語調等について確認している。不適切なケアが疑われる場合は、その場で職員同士注意し合っている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内勉強会や研修会等へ参加しスキルアップに努めています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・書面により家族へ口頭で説明を行い了解し署名、捺印を貰う事が出来ています。 		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からは普段の関わりの中から、家族からは電話や面会、自宅訪問の際に意見を聞き内容を職員ミーティングや書面により報告しサービス見直し、新たなサービス支援に努めている。 	<p>利用者の要望等は、普段の生活の中から聞き、「家を見たい」、「おいしいものが食べたい」、「花見に行きたい」等に対応している。家族からは、毎月通信等を手渡す際の訪問時や面会時、電話等で意見等を聞いている。「外泊させたい」、「面会制限中でも顔が見たい」等の要望があり、自宅の玄関先で対面させたり、居室の窓越しの面会等を支援している。利用者の日々の活動風景や花火大会、ミニ運動会等の行事の様子を紹介する通信を毎月作成し、家族との連携に努めている。</p>	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の業務の中で意見を聞く機会を設け月1回の職員会議等で業務改善や意見交換を持てるようにしている。 	<p>職員の意見や要望は、月1回の職員会議や日常の業務の中で管理者や介護リーダーが聞いている。入浴支援の曜日変更や寝具の交換、職員の休憩時間等について提案があり、職員会議で検討して業務改善に繋げている。緊急時対応用の酸素ボンベや感染症対策のための消毒用噴霧器等について、職員間で話し合い、法人に要望して購入している。</p>	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の頑張りや現状を定期的に報告している。労働安全衛生委員会を定期開催し労務や労働環境改善に努めています。 ・積極的な正規職員採用等も行っている。 	<p>職場環境や労働条件等については、「就業規則」に則り、働きやすい環境整備がなされ、福利厚生面も充実している。有給休暇の取得や資格取得のための勤務調整、研修の奨励、休憩時間・場所の確保等をはじめ、年2回の健康診断を実施し、35歳以上の人間ドックの補助や年1回のストレスチェックも行っている。職員全員の輪番制による夜間帯のオンコール体制があり、夜勤者の安心につながっている。新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金も各職員に支給されている。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内外研修へ積極的に参加させスキルアップに努めています。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の事業所を訪ねたり村外のグループホームへ電話や直接出向き新たな情報を聞き取りしサービスの質の向上に努めています。 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんに寄り添い困りごとや不安等を聞き出している。 ・日頃の会話の中で利用者さんが発した言葉をくみ取り支援につなげ関係づくりを図っています。 		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・インテークやアセスメントから把握できる家族の情報を職員間で共有し家族の思いや困っている事を把握し対応している。 ・家族の面会や定期受診による家族付き添いの際に今の生活状況を報告すると共に家族からの困りごとを聞き取りし関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・初期の段階では「その時」まず必要としている支援に関してはアセスメント、介護計画書から必要としている支援を見極めサービス提供し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の得意とすることや培ってきた能力を活かしグループホームのみんなが家族の一員であるという雰囲気意識し行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の家族へ気持ちを伝えたり、事業所へ足を運んで貰える様、電話や直接自宅訪ねることで家族との絆が切れることの無い様努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域の友人や知り合いの方々がいつでも来やすい雰囲気を提供し、また、感染防止に努めながらこちらから地域へ(行事等へ)出向き関わりを大事にしています。	馴染みの人や場との関係については、家族や友人等から聞いて把握している。地元の同級生や親戚が初ムーチーや野菜等を持参して来訪し、談笑する機会がある。ラジオや新聞が好きな利用者には、長年の生活習慣が継続できるよう支援している。家族や職員とともに選挙に参加する利用者もいる。出身地域の豊年祭やハーリー等の伝統行事の見物も支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりが孤立しない様利用者同士の関わりや関係性のバランスを見ながら安心して生活できるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・やむなくサービスを終了する利用者さんへはサービスが途切れることなく安心して生活が送れる様必要な情報を提供し支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いや生活への意向に耳を傾けることに努めています。 ・家族へ相談をし本人の意向を検討し支援しています。	利用者の半数以上が意思の疎通が可能で、全員が発語もあり、利用者自身が思いを表出しやすい声かけや環境づくりに努めている。日々の生活の中で、「兄弟や姉に会いたい」、「自宅に行きたい」、「花を見たい」等の要望があり、個々の意向に対応している。「亡夫に会いたい」との要望には、家族と相談し、息子宅へのドライブを支援している。朝の生活パターン等、一人ひとりの思いを把握し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・インテーク、アセスメントの際に本人のバックグラウンドに関する情報を把握し対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・家庭的な雰囲気ですひとり一人の過ごし方に応じて心身ともに安定し楽しく生活が送れる様努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・申し送りや職員会議、担当職員との話し合い、必要に応じてミーティングを行いサービスの見直しを行い提供しています。	管理者は、毎月家族宅を訪問する際や受診の連絡・報告時に意向を聞いている。サービス担当者会議には利用者や家族等が参加し、意向を反映した介護計画の作成に努めている。長期目標は1年、短期目標を半年とし、毎月担当職員が「評価表」を用いて行うモニタリングの結果を計画作成担当者と共有し、定期や随時の見直しに繋げている。退院後の利用者家族より「下肢筋力の維持のため、生活リハビリをしてほしい。」との要望があり、介護計画の見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の日誌記録からケース記録に落とし込み職員間で情報共有し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々発生するニーズに対して支援も柔軟に対応するよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・家族や地域の知り合いの面会(今年度は感染対策行い)によりお互い励まされ生きがいになっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期受診は家族対応により管理者も同行し病状への報告を行い助言が貰えている。 ・定期受診以外でも体調に変化があった場合はかかりつけ医に連絡し受診している。	利用者は入居する前からの馴染みのかかりつけ医へ受診している。毎日、全利用者の体温、血圧、脈、酸素濃度等をバイタルチェック表へ記入し、受診時には直近2週間のデータを書面で主治医へ提供している。定期受診は家族対応であるが、管理者も同行し、利用者の状況説明を行ない、主治医からの助言や家族からの情報等を共有できるようにしている。年度途中から、リモート診療も実施している。利用者全員、年1回の健康診断や必要時には血液検査等も実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・法人内より週1回は派遣される看護師へ介護職員、日ごとの利用者の状態報告や体調への変化等を相談、助言が貰え、受診が必要な場合は速やかに受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院先へ足を運び面会を行うと共に担当医や病棟の看護師より病状把握に努めている。また、地域連携室を訪ねたり、連絡入れ退院が早目に来れるよう連携を密に行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人、家族へ事業所で出来ることを十分に説明、理解してもらい方針を共有し関係機関と連携し取り組んでいます。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を本人、家族へ説明している。看取りに関する指針が整備されており、看取り介護に関する勉強会も実施している。「段階における各職種の役割」や「看取りケアマネジメントの流れ」等の具体的なマニュアルを整備し、関係機関との連携を行ないチームで支援に取り組んでいる。看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・法人内研修で実施する救急法講習会へ参加し実践力を身に付けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回災害を想定した避難訓練を消防立ち合いにより実施しています。 ・災害時応援活動、協力協定書を地域の区長と締結している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。地震・津波を想定しての広域避難訓練にも参加している。災害対策マニュアルを整備し、消防設備点検も行われている。備蓄リストを作成し、利用者・職員の水、食料品の3日分を備蓄している。自家発電機も設置されており、災害時の停電に備えている。関係書類の一括した整理、7日分の備蓄の整備にも期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者の生活歴を知り、敬い、呼名する時は○ ○さんと相手を尊敬する言葉で呼んでいます。	一人ひとりが住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けられるように、利用者のペースに合わせた支援を心がけ、一年間の健康と安全を祈願する初ウクシー行事では、利用者自身が行うことで役割が持てるように支援している。各居室内にトイレがあり、カーテンが設置され、排泄時は居室のドアを閉めることでプライバシーを確保している。個人情報保護方針と利用目的を掲示しているが、写真の掲載等についても利用目的を追加して家族等に説明し、同意を得ることに期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人が思いや希望が言い易い環境づくりを心掛け接しています。日々の会話の中で「何か困っていることはありませんか」など聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者本位の過ごし方で本人のペースに合わせた支援を心掛け対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人が好む季節に応じた服装や整容に配慮し対応しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・栄養士が作成する献立に沿った調理により栄養バランスのとれた食事を提供しています。 ・野菜の下ごしらえ等楽しく行っている。	食事は3食とも事業所で、職員が調理している。法人の栄養士が献立を作成している。敷地内にある菜園で収穫したゴーヤーや大根、差し入れの野菜等も食材として活用し、利用者6名程が野菜の皮むき等の下ごしらえを一緒に行なっている。利用者の希望でメニューをアレンジして焼きそばを沖縄そばに変更することもある。全職員ではないが、職員も利用者と一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事・水分量のチェック表を作成し必要量を摂取できるよう支援しています。 ・食事形態に関して、その人の咀嚼力や嚥下の状態に応じて内容を変更し対応しています。 ・水分制限が必要な利用者には1日必要な飲水量を記録し管理しています。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、声掛けを行い介助が必要な利用者へは歯磨きの準備をし声かけしながら行っています。 		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・尿便意識のある利用者は個々の時間で排泄を行い尿便意のない利用者へは排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握し声かけ誘導することで気持ちよく排泄できるよう支援します。 	<p>全利用者の排泄チェック表を作成して、職員が一人ひとりの排泄パターンを把握し、訴えのある利用者は個々の時間で、訴えない利用者へは声掛け誘導にて支援している。各居室にトイレがあり、ゆっくりと本人のペースで排泄ができています。また、転倒予防体操として毎日立ち座りの運動を行なうことで排泄動作の自立に繋げている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・便秘になりやすい利用者排便チェック(量・性質)し水分量や自然食品の摂取など提供し排便を促すよう努めている。 ・腹部マッサージや運動を取り入れスムーズに排便できるよう支援しています。 		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴日を隔日で設け行っています。ただ、その時に利用者が「今は入りたくない」等の訴えが聞かれる時は時間をずらすなど希望を聞き臨機応変に対応しています。 	<p>入浴は週3回としているが、利用者の希望に添って入浴できるように支援している。同性介助を基本としている。入浴を拒否する利用者への対応として、時間を置いて声かけし対応している。香りのよいヘアクリームやボディクリーム等を準備し、入浴を楽しめるように工夫し支援している。</p>	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は食堂ホールで過ごしていますが居室でテレビを見たい時や休みたい時は本人のペースに応じて対応しています。 ・夜間帯も職員が見廻りしている事を利用者へ伝え安眠出来る様対応しています。 		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり一人の薬説明書を定期受診の際にその都度貰った内容をファイルに納め職員はそれを見て服薬内容確認し理解しています。 ・異変に気づいた時は派遣される看護師へ相談の上、かかりつけ医へ上申し服薬の調整を行い変更や追加があった場合は薬説明書に印を付け職員がわかり易い様にしています。 	職員は利用者全員の服薬状況について共有し、管理者と看護師が1週間分をセットした後、職員が1日分をセットしている。服薬時も職員2人で名前、日付等を確認し与薬している。令和2年5月、6月に飲み忘れがあったが、ヒヤリハット報告となっている。令和3年1月に誤薬があり、医師の指示のもと適切に対応している。職員会議を行ない、服薬支援マニュアルの改訂が行われているが、改訂年月日の記入がない。	服薬支援マニュアルの整備を行ない、誤薬発生後の対応、再発防止の検討会議での対応策等について全職員への周知を図り、安全な服薬支援の実施が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・生活歴から趣味や興味があるものを聞き余暇時間を活用し行っています。 ・旬の野菜が地域の方からお裾分けがある時は職員と一緒に加工物を作り食を楽しんでいます。 ・定期的にドライブや地域のイベントへ出掛ける。 		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の新聞読みや地域の情報などで見学したいところなど要望があるときは計画し出かけている。 ・年間計画に沿った外出など車中からの見物、天気のいいときは村外や村内近場などへ出掛けています。 	毎月、ドライブを実施し、利用者の馴染みのある地域での花見や自宅訪問、島巡り等を行なっている。ミニドライブの際は車1台に3名ほど乗せ、毎回交代で全利用者が気分転換できるように工夫している。天気の良い日は玄関前や居室のベランダでの日向ぼっこ、テラスでのおやつ会を支援し、近隣の散歩も全利用者が行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な時、家族へ連絡し小遣いを貰い買い物や散髪、病院受診の時に自分で支払っています。 		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年 5月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族からの電話や利用者から依頼がある時はいつでも職員が電話を掛け家族とお話する事が出来る。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間(玄関・廊下・台所・食堂・浴室・トイレ等)はバリアフリーであり廊下は車椅子での移動もできる環境である。 ・廊下の窓からは村民の森つつじ園が見られ居室の隣は畑があり野菜の生育や収穫を楽しむ。	玄関や洗面台等には観葉植物が置かれ、中庭は吹き抜けとなっており、居室の外側には畑もあって、緑が多くゆったりとした空間となっている。居間の壁には利用者と職員と一緒に作成した手工芸品が季節に合わせて展示されている。畳間やソファがあり、利用者は共有スペースで過ごすことが多い。テレビの音量も適度な大きさに設定し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・以前からのなじみの利用者や気が合う利用者同士と配席を配慮するなどの工夫を行い利用者が気持ちよく過ごせるようにしています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時、本人及び家族へ居室の説明、相談をし入居されています。またこれまで使い慣れたものを使用できるよう配慮しています。	各居室にはトイレと洗面台、ナースコールが設置されており、ベッドやダンス等の事業所で備えた物の他に、本人が使い慣れたテーブルやテレビ、ラジオ等が持ち込まれている。利用者自身が作成した作品や家族の写真等を飾り、本人が居心地よく過ごせるような環境づくりをしている。トイレと洗面台コーナーのカーテンは、排泄時だけではなく、在室時にも閉める等の配慮に期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・見守りをこまめに行うことで本人が出来ることを安全に行えるよう支援しています。 ・ナースコールを活用し本人がやりたいことができるよう説明し支援しています。		